

式 辞

ただいま、354名の皆さんに卒業証書をお渡ししました。まずは、卒業生の皆さんに心からお祝いを申し上げたいと思います。

「皆さん、卒業おめでとうございます」

そして、お子さんをこれまで育ててこられた保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。さまざまな困難を乗り越えて、立派に成長された姿を皆様とともに喜びたいと思います。

また、ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。本校のことをいつもお心にかけていただき感謝に堪えません。職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは、本日、高校卒業という「人生の大きな舞台」に立ったわけですが、近い将来社会に出て、21世紀を生き抜き、22世紀の架け橋となる皆さんに、私が日頃考えている2つのことをお話して、はなむけの言葉にしたいと思います。

10代後半から20代前半は、人生の中で最も「夢や目標」を持つ時期だと言われます。横浜翠嵐高校卒業という節目に立った皆さんも、次のステージに向かっていろいろな夢や目標を持っていると思います。しかし、これから皆さんが歩いていく道は、決して平坦な道ばかりではありません。苦しいことや辛いこともあるでしょう。その苦難に対し、自分なりに考え努力し、立ち向かう姿勢を持つことが大切です。そして、どうしても一人で立ち向かうことが難しい時には、仲間や自分の周りの人々を信じ、その力を借りることも同じくらい大切です。

昨年、ブラジルのリオデジャネイロにおいて、オリンピック・パラリンピックが開催され、各種目で様々なドラマが繰り広げられました。中でも、陸上男

子400mリレーの日本チームの銀メダルは、世界に衝撃を与えました。日本チームには、100メートルを9秒台で走る選手はいません。では、何故日本はアメリカやジャマイカといった強豪揃いのチームと対等に渡り合い、銀メダルを獲得できたのでしょうか。それは「バトンパス」のテクニックです。彼らは、この技術を高めることで、一人ひとりの走力の不足を補ったのです。

日本チームは決勝において、すばらしいバトンパスを見せた予選よりも、さらにパスの距離を伸ばす選択をしました。これは、加速が期待できる一方で、失敗のリスクもたかまる選択でしたが、彼らは、攻めの姿勢を見せました。そして、仲間をひたすら信じ、一人ひとりがベストを尽くすことで、夢を実現させ、栄光をつかみ取ることができたのです。

皆さんも、このリレーの日本チームのように、高い目標に向かって「自分自身の努力」と「立ち向かう勇気」と「仲間を信じる勇気」を持って、「挑戦」し続けていくことを願っています。

次に、近い将来、社会に出て、21世紀を生き抜き、22世紀への架け橋となる皆さんにお願いがあります。それは、少し大げさな言い方ですが、皆さんの人生の先輩たち、いやこれまでの人類の誰もが経験しなかった変化が今まさに起きているということについてじっくり考えてほしいということです。

実は、すでにその途方もない変化の中にいるのですが、それに対して準備ができている人は少ないと思います。私もまだ準備できていません。その変化とは、「少子高齢化」という変化です。特に「高齢化、つまり長寿化」です。昨年、話題になった『LIFE SHIFT (100年時代の人生戦略)』というロンドンのビジネススクールの教授が書いた本によると、2007年に先進国と言われる国で生まれた子どもの半数は、100歳以上に寿命が伸びる。日本に至っては、平均寿命が107歳に延びると書いています。

残念ながら人生100年を生きる知恵は、20世紀生まれの私たちにはありません。そして、学校のキャリア教育も、まだ100歳寿命を前提としたものにはなっていません。ですから、皆さんには、これからの長い人生をどのように計画するかという大きなテーマが与えられています。人生が長くなれば、経験する変化も多くなります。人生で経験するステージが多くなれば、選択の機会も多くなります。変化と選択の機会が増えれば、人生の出発点はそれほど重要ではなくなってきました。ぜひ、100歳になった自分が今の自分をどう見るかを考えてほしいのです。これからの人生には、多くの分岐点があります。その一つひとつの分岐点、どちらを選ぶかは自分自身で決めなくてはなりません。その時の判断の拠り所になるのは、「あなたはどのような人間なのか、何を大切に生きているのか、何を人生の土台にしたいのか」です。

どうか、長い人生を心豊かに生きる「人生計画」を立ててください。

今日の卒業式を前に、皆さんが入学したときに配付された『学習の手引き』を見ました。その冒頭には、

若者は3年間で驚くほどの成長を遂げる。どれだけ成長し、変貌を遂げられるかは、その人次第である。過ごし方によって大きく違ったものとなるだろう。また、3年間という「時間」は誰にも平等に与えられると同時に、2度と戻ってこない。

自分の未知の世界を開拓しよう。新しい世界に足を踏み入れてみよう。変わることに臆病になってはいけない。もちろん、面倒くさがってはいけない。また甘く見てはいけない。

「学びの場」には、

- あらゆることに興味・関心・疑問の目を持つ「好奇心」
- それを自ら解明し、追求しようとする「探究心」

○ 学びに対する「謙虚さ」が大切である。

これらのことは、卒業後にも当てはまると思います。どうか、皆さんの夢の実現の土台に、そしてこれからの人生の土台のひとつにしてください。

最後になりますが、本日の私たちの幸せな気持ちはまぎれもなく皆さんのおかげです。この感謝の気持ちを、卒業生の皆さん一人ひとりに差し上げたいと思います。

卒業おめでとう、そしてありがとうございました。元気に翔び立ってください。

平成29年3月1日 神奈川県立横浜翠嵐高等学校長 佐藤 到